

幼児教育学科 1年 前期 専門科目

1. 保育原理
2. 教育原理
3. 子ども家庭福祉
4. 保育の心理学
5. 子どもの保健
6. 幼児理解
7. 保育内容(健康)
8. 保育内容(言葉)
9. 保育内容(表現)
10. 保育内容(身体表現)の指導法
11. 乳児保育 I
12. 幼児と音楽表現 I
13. 臨床美術
14. 保育表現技術(言語表現)
15. 保育実習指導 I -①

幼児教育学科						
科目名： 保育原理				担当教員 氏名： 水上 彰子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修) 社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：		保育現場が期待する保育者像と専門知識が結びつく事例を提示する				
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
保育の意義及び目的、保育所保育指針における保育の基本について理解する。 保育に関する法令及び制度、保育の現状と課題について理解する。 保育の思想と歴史的変遷について理解する						保育の意義、保育所保育指針、法令及び制度、保育の思想と変遷
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			保育・教育の基礎的な知識を身につけ、保育者の役割を理解する。			
C 論理的思考力			情報や知識を複眼的、論理的に分析する。保育・教育に関わる専門性を理解し表現できる。			
D 問題解決力			保育の計画立案や、人的物的環境の関係性を理解し、保育課題を考察する力を身につける			
E 自己管理能力			保育者の社会的責任を理解し、期待される保育士の「私」をつくる			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 80 %		レポート： 20 %		発表： %	実技試験： %	その他： %
特記事項：						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：テストは別に定めた日時に実施する。振り返りレポート提出。課題レポート提出						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：テストは採点、レポートはコメント記入して返却する。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①「保育」とは何か、「保育」を行う人、「養護」「保育」「教育」のことばの意味				【復習】事例「相手の側にたつ」レポートを書く	120分	
②保育の基盤としての子ども観—子ども観と保育の内容・方法—				【復習】自分の子ども観を書く	120分	
③子ども理解から出発する保育—子ども理解・まなざし—				【予習】教科書3章を読む	120分	
④子どもが育つ環境の理解—人的環境と物的環境の関連—				【復習】チェックリスト「環境」「言葉」を自己評価する	120分	
⑤保育内容・方法の理解—保育の基本と保育内容・方法—				【復習】チェックリスト「健康」「人間関係」を自己評価する	120分	
⑥子ども主体の保育内容—子ども主体の保育内容・方法の理解—				【復習】チェックリスト「教育及び保育の配慮」を自己評価する	120分	
⑦保育の計画と実践の原理—保育における計画の意義と位置づけ—				【復習】チェックリスト「指導計画作成の配慮」を自己評価する	120分	
⑧保育に関する法令及び制度—子ども家庭福祉の法体型・子ども子育て新支援制度—				【予習】子ども子育て支援新制度を読む	120分	
⑨多様な子どもと共に育つ保育—多様な子どもを受け入れる園の体制—				【復習】チェックリスト「障害児保育」を自己評価する	120分	
⑩保育の思想と歴史的変遷—諸外国の保育の思想と歴史—				【予習】教科書9章1,2,3を読み保育を導いた思想家を知る	120分	
⑪保育の思想と歴史的変遷—日本の保育の思想と歴史—				【予習】教科書9章4,5を読み日本の幼児教育の歴史を知る	120分	
⑫保育者に求められるもの—保育者の仕事と役割—				【復習】テーマ「支え合いの子育て」レポートを書く	120分	
⑬家族援助と子育ての支援—子育て支援ニーズの理解と相談援助—				【復習】チェックリスト「子育て支援」を自己評価する	120分	
⑭子どもの理解に基づく保育の過程—計画・実践・記録・省察・評価・改善とその循環—				【復習】保育の過程の循環内容をまとめる	120分	
⑮保育の現状と課題—幼稚園・保育園・子ども園の現状と課題、保育の質の向上—				【予習】教科書12章保育の現状と課題を読む	120分	
「保育原理」(ミネルヴァ書房)渡邊英則編著、ISBN978-4-623-08027-4「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型教育保育要領の成立と変遷」(萌文書林)、ISBN978-4-89347-254-0「保育者のための自己評価チェックリスト」(萌文書林)ISBN978-4-89347-351-6				その他参考文献など：「0歳児～12歳児の発達と学び」清水益治・森敏昭編著(北大路書房) 「子どもは成長する、保育者も成長するⅠ」「Ⅱ」 成田朋子著(あいり出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：配布する新聞連載記事「支え合いの子育て」の中で一番心に触れたテーマでレポートを記述していただきます。						

幼兒教育學科

科目名： 教育原理				担当教員 氏名： 宮越 浩子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修) 社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：		学校現場における教員経験を踏まえて、教育の基本概念、教育の理念、今日求められる幼児教育・保育の在り方や保育者像等について解説する。また、保育者の社会的責任・役割を理解し、求められる保育者像に向かう「私」づくりを継続するための視点を得られるようなアクティブ・ラーニング型授業を行う。				
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
教育の基本概念とは何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。					教育の意義と目的、教育・保育の歴史、環境、人間形成、教育課程・保育課程、遊び	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 6. 7.	
A 知識・理解力			教育の目的、国内外の教育の理論・歴史・教育制度などを理解する。			
C 論理的思考力			「環境を通して行う」幼児教育、「遊びを通しての指導」、今日の教育について、授業で学び調べたことをもとに教育の意味や在り方を論理的に考える。			
D 問題解決力			今日求められる幼児教育・保育の在り方や保育者像について授業で学び調べたことをもとに、自分なりに考察する。			
E 自己管理能力			保育者の社会的責任・役割を理解し、求められる保育者像に向かう「私」づくりを継続する。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %		レポート： 30 %		発表： %	実技試験： %	その他： 20 %
特記事項：上記の「テスト：50%」は中間・期末・定期的なミニテストで、「レポート：30%」は授業後のレポート、「その他：20%」は、授業時の参加姿勢・態度を評価する。本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として、グループワークやディスカッションの機会を積極的に取り入れる。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第8回目、第16回目の授業、及び定期的に振り返りを実施する。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：テスト、レポート等は評価終了後返却し、その後の学び方の改善やさらに学びを深めるために活かすよう指導する。						
授 業 計 画				準備学習（予習・復習等）		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①教育を実践する者になるために				【予習】教科書（教育を実践する者になるために）を読む。【復習】①の復習	【予習】60分 【復習】120分	
②教育学の諸概念、教育の本質と目標				【予習】教科書（教育の意義と目的）を読む。【復習】②の復習	【予習】60分 【復習】120分	
③子供、保育者、家庭との相互関係				【予習】教科書（子どもへの理解）を読む。【復習】③の復習	【予習】60分 【復習】120分	
④教育の歴史（Ⅰ）－家族及び社会による教育の歴史				【予習】教科書（教育の歴史 歴史と子ども観の変遷）を読む。【復習】④の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑤教育の歴史（Ⅱ）－近代教育制度の成立および展開				【予習】教科書（教育の歴史 学校教育の展開）を読む。【復習】⑤の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑥教育の歴史（Ⅲ）－幼児教育の展開、教育の制度				【予習】教科書（教育の歴史 幼児教育の展開）を読む。【復習】⑥の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑦教育の思想（Ⅰ）－家庭及び子供に関わる教育の思想				【予習】前時の配布資料（家庭及び子供に関わる教育の思想）を読む。【復習】⑦の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑧教育の思想（Ⅱ）－学校及び学習に関わる教育の思想				【予習】教科書の教育家の思想関連のページを読む。【復習】⑧の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑨教育の思想（Ⅲ）－教育家の思想				【予習】教科書の教育家の思想関連のページを読む。【復習】⑨の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑩教育課程・保育課程－保育のカリキュラム－				【予習】教科書（教育課程・保育課程）を読む。【復習】⑩の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑪遊びの指導・援助のあり方－保育方法－				【予習】教科書（遊びの指導・援助のあり方）を読む。【復習】⑪の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑫自己評価から第三者評価まで－保育の評価－				【予習】教科書（自己評価から第三者評価まで）を読む。【復習】⑫の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑬保育者の役割				【予習】教科書（保育者の役割）を読む。【復習】⑬の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑭今日の教育1－現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する				【予習】教科書（教育が抱える課題）を読む。【復習】⑭の復習	【予習】60分 【復習】120分	
⑮今日の教育2－幼児教育の課題と未来、保育者を目指すために				【予習】教科書（幼児教育の課題と未来、教え・育てる「大人」になるために）を読む。【復習】これまでの講義の振り返り	【予習】60分 【復習】120分	
⑯期末試験						
使用テキスト：①西本望編/シリーズ知のゆりかご いまがわかる教育原理/(株)みらい/ISBN978-4-86015-450-9 ②民秋言編/「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領の成立と変遷」/(株)萌文書林/ISBN978-4-89347-254-0					その他参考文献など：	
受講上の留意点（担当者からのメッセージ）：配布資料はファイル等して保管し、授業時に持参すること。						

幼児教育学科

科目名: 子ども家庭福祉				担当教員 氏名: 清水 剛志		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: スクールソーシャルワーカーとして子どもを取り巻く環境に働きかける支援の実践を紹介する。						
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
少子・高齢化社会における児童家庭福祉の意義を考え、児童家庭福祉を支援する社会福祉制度・施策の役割についてその現状と課題ならびに動向と展望について、系統立てて理解する。						子どもの権利擁護 家庭支援 社会情勢 生活保障
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			現代社会の中での子ども家庭福祉の制度が果たす役割について理解を深める。			
B 専門的技術			制度の仕組みや相互の関係性について考察する。			
C 論理的思考力			受講内容について、その課題を客観的に整理し、まとめる力をつける。			
D 問題解決力			福祉従事者を目指すものとしての児童理解を深め、倫理観を高める。			
H コミュニケーション力			授業を通して、他の者との意見交換や協調する力を培う。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %		レポート: 20 %		発表: %	実技試験: %	その他: 20 %
特記事項: 評価のその他は、受講態度や出席状況を勘案する。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時で実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 講義内による講評						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①オリエンテーション、子ども家庭福祉とは何か				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
②現代社会と子ども、子どもが家庭の変容				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
③子ども家庭福祉の理念、子ども家庭福祉の歴史				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
④わが国の子ども家庭福祉の展開				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑤諸外国の子ども家庭福祉の状況				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑥子ども家庭福祉の法律、制度				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑦事例検討						
⑧子ども家庭福祉の体制と機関				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑨少子化と地域子育て支援				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑩母子保健と子どもの健全育成				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑪子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑫保育ニーズへの対応				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑬保育・教育・療育・保健・医療等の連携とネットワーク				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑭事例検討				【復習】振り返り課題をまとめる	【復習】30分	
⑮まとめ、子ども家庭福祉の今後の課題						
使用テキスト: 最新 保育士養成講座 改訂1版 第3巻 子ども家庭福祉 出版社: 全国社会福祉協議会				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

科目名： 保育の心理学				担当教員 氏名： 石津 孝治		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：						
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
保育実践に必要な心理学の知識を習得する。特に、子どもの発達にかかわる心理学の基礎的知識、子どもが人とかかわりの中で発達すること、等に重点を置く。また、生涯発達と初期経験の重要性についても学ぶ。					・発達 ・認知 ・社会性 ・生涯発達	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 5. 6. 7. 9.			
A 知識・理解力			各側面から乳幼児の発達を理解できる。			
C 論理的思考力			発達を多面的に捉えることができる。			
G 倫理観			子どもが育つための大人(保育者)の重要な役割と責任について理解できる。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 100 %		レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： %	
特記事項：テストについては、1回目が30%、2回目が70%。						
アクティブラーニング要素：						
課題解決型学習 ディスカッション、ダイアログ グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：テストを採点し返却する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①保育と心理学について。乳児期の知覚1(新生児や乳児期の視覚機能について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
②乳児期の知覚2(乳児期の聴覚について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
③乳児期の認知について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
④愛着の発達(愛着の発達や大人との関係性について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑤乳児の対人関係や指差しの意味などについて学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑥乳児の個人差(「気質」の概念から個人差について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑦前半のまとめ				予習。①～⑥までの内容の理解を確認する。	予習30分	
⑧かかわりの中での発達(1)(共感と力動感)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑨かかわりの中での発達(2)(応答関係と子どもを認めること)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑩幼児期の遊び(1)(遊びのおもしろさと発達について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑪幼児期の遊び(2)(遊びの中の学びについて)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑫幼児期の遊び(3)(遊びの援助について学ぶ)				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑬乳幼児期の学びに関わる理論について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑭乳幼児の学びの過程や環境について学ぶ				復習。ノートを整理する。疑問点をリスト化し、調べる。	復習20分	
⑮まとめ				講義全体の理解を確認する。	予習30分	
使用テキスト：					その他参考文献など：「子どもとかかわる人のための心理学」沼山博他編(萌文書林)	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：						

幼児教育学科

科目名: 子どもの保健				担当教員 氏名: 土居 和代		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	6単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		助産院や保健センターでの育児相談、病院での新生児の診療介助				
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
「養護」の視点を踏まえた実践力の向上を目指し、子どもの発達、学びの過程や特性に関する内容を体系的に理解する。また、子どもと家庭に関して包括的に理解し、保育における保健的対応に関する基礎的事項を習得する。						・子どもの健康 ・子どもの発達 ・健康支援
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。			
C 論理的思考力			子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。			
B 専門的技術			子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。			
B 専門的技術 D 問題解決力			子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %		レポート: 20 %		発表: 10 %		実技試験: % その他: 10 %
特記事項: 課題やケーススタディをグループワークで行い、他の学生の前でプレゼンテーションを実施する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: グループワークを実施し、評価する。適宜、小テストを行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テスト実施時、内容解説と答え合わせを行う。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①子どもの健康と安全 子どもの発育・発達				【予習】テキスト①を読む 【復習】①の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
②子どもの発育・発達と保健				【予習】テキスト②を読む 【復習】②の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
③現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、母子保健対策				【予習】テキスト③を読む 【復習】③の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
④地域における保健活動と子どもの虐待防止 ケーススタディ グループワーク				【予習】③の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑤ケーススタディの発表 児童虐待の予防				【予習】担当者別発表準備	【予習】120分 【復習】120分	
⑥子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ				【予習】テキスト⑥を読む 【復習】⑥の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑦子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握				【予習】テキスト⑦を読む 【復習】⑦の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑧中間テスト・保護者との情報共有と関連機関との連携				【予習】テキスト⑧を読む 【復習】⑧の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑨子どもの病気 ～感染症及び急性疾患による緊急時の対応～				【予習】テキスト⑨を読む 【復習】⑨の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑩子どもの病気 ～先天性疾患とアレルギーについて～				【予習】テキスト⑩を読む 【復習】⑩の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑪グループワーク(子どもの事故とその予防)				【予習】⑩の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑫グループワークの発表				【予習】担当者別発表準備	【予習】120分 【復習】120分	
⑬子どもの病気 ～慢性疾患の特徴と適切な対応～				【予習】テキスト⑬を読む 【復習】⑬の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑭保護者との情報共有と家族支援				【予習】テキスト⑭を読む 【復習】⑭の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
⑮期末テスト 医療的ケアが必要な子どもと家族の関わり方				【予習】テキスト①～⑭を読む 【復習】①～⑭の学びの振り返り	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 『子どもの保健テキスト』/小林美由紀:編著 森脇浩一:編集協力/診断と治療者/ISBN978-4-7878-2330-4				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業では子どもの保健のほか、親や保育者自身の健康についても関心をもってもらう機会にしたい。また、グループワークを取り入れ、他の人の意見を聞き、話し合うことにより課題を取りまとめる手法や他者に分かりやすく伝える方法を学んでほしい。						

幼児教育学科

科目名： 幼児理解				担当教員 氏名： 堀江 修		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	講義	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：		保育エピソードや映像等により、具体的な子どもの事例に基づき授業を行う。				
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼児一人一人の特性に応じ、発達課題に即した指導を行うために、幼児の発達観や共感的理解について具体的な事例を通して学び、実践力を養う。						幼児理解 保育の観察と記録 個と集団 家庭支援 地域の子育て支援
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 9.	
A 知識・理解力			幼児理解の意義を理解している。			
A 知識・理解力			幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。			
D 問題解決力			幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。			
D 問題解決力			幼児理解の方法を具体的に理解している。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %		レポート： 50 %		発表： 30 %		実技試験： %
						その他： 20 %
特記事項： 自分の幼児期の想起とそれに基づくディスカッションや発表等に対する姿勢も評価する、						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 8回目の講義から1週間以内に指示したレポートを提出する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： 小レポート及びレポートはチェック後返却します。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション				【事後】①の復習	30	
②幼児理解の意義				【事前】レポート作成 【事後】②の復習	60	
③幼児理解から発達及び学びを捉える原理				【事前】 【事後】③の復習	30	
④幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度				【事前】 【事後】④の復習	30	
⑤幼児理解のための観察及び記録について				【事前】 【事後】⑤の復習	30	
⑥個と集団の関係を捉える意義及び方法				【事前】 【事後】⑥の復習	30	
⑦幼児のつまずきを理解するための手立て				【事前】 【事後】⑦の復習	30	
⑧保護者の心情及び基礎的な対応について				【事前】 【事後】課題レポート作成	60	
使用テキスト：				その他参考文献など： 文部科学省『幼児理解に基づいた評価』 チャイルド本社		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 幼児理解は保育の基盤となるものです。多様な視点から、また共感的に理解できるよう学んでいきましょう。						

幼児教育学科

科目名: 保育内容(健康)				担当教員 氏名: 小川 耕平		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	3単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのよう健康運動指導士として、健康づくりに関する普及活動を行ってきたことから、個々の現在の健康・体力に うな授業を行っているか: 関する状況を把握したうえで生涯を通じてスポーツ実践を継続するための基礎的な知識を理解する。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
自らの健康状態について把握と生涯を通じた健康づくりの重要性の知識に関する理解 を深めた上で、年齢層(特に幼児期)に必要な健康づくりの取り組みについて、知識と技 術を習得する。					・スキヤモンの発育曲線 ・健康づくり ・幼児期の健康づくり	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			生涯を通じた健康づくりのための取り組みや指針などを説明できる			
B 専門的技術			幼児期の発育・発達特性について、スキヤモンのグラフを用いて説明ができる			
E 自己管理能力			自分の健康状態を把握し、健康増進のための健康づくりについて実践できる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	20 %	実技試験: %
その他: %						
特記事項:						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 8回、14回目に課題レポートを課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート用紙返却時にコメントにてフィードバック						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①我が国の健康づくり施策について				事後: 国の健康づくりについて理解する	30分	
②健康づくりの3原則と実践方法について				事後: 健康づくりの3原則の実践	30分	
③年代に応じた健康づくり(青年期)				事後: 自分の健康状態を理解する	30分	
④年代に応じた健康づくり(高齢期)				事後: 高齢者の健康について理解する	30分	
⑤年代に応じた健康づくり(乳・幼児期)				事後: 幼児期の健康について理解する	30分	
⑥基本的生活習慣について				事後: 基本的生活習慣について理解する	30分	
⑦安全環境と安全教育				事後: 安全について理解する	30分	
⑧中間振り返り 課題レポート				事後: 課題レポートの確認	30分	
⑨幼児期の疾病と応急処置				事後: 応急処置方法を理解する	30分	
⑩活動時のリスクマネジメントについて				事後: リスクマネジメントを理解する	30分	
⑪スキヤモンの発育曲線について				事後: スキヤモンの発育曲線を理解する	30分	
⑫幼児期に必要な身体活動について				事後: 身体活動量について理解する	30分	
⑬健康づくりの指導計画と指導方法について				事後: 健康づくりの指導方法を理解する	30分	
⑭幼児期の健康づくりのための活動を考える 課題レポート				事後: これまでの内容をまとめる	30分	
⑮幼児期の健康づくりのための活動を考える 振り返り				事後: これまでの内容をまとめる	30分	
使用テキスト: 特になし。適宜資料を配布します				その他参考文献など: 保育内容(健康)光生館		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科						
科目名： 保育内容(言葉)				担当教員 氏名： 若山 育代		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	3単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：						
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
子どもの発達を「言葉」の領域の観点からとらえ、それに基づいて保育内容について具体的に学ぶ。						言葉 発達 援助
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			乳幼児の発達を言葉の領域からとらえて、乳幼児期の発達に即した言葉を育てる援助を提案する。			
B 専門的技術			領域「言葉」の保育内容を総合的に展開していくための知識・技術・判断を習得する。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 25 %		レポート： %	発表： 10 %		実技試験： %	その他： 65 %
特記事項：・パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート、手袋シアター、カードシアター、ハンカチシアター、ローブシアター、靴下シアターなど、幼児教育におけるお話教材の中から好きなものを2つ選んで作成し、発表することが含まれます。						
アクティブラーニング要素：						
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：授業時間における【A知識・理解力】は15回目に行うテストで評価します(25点)。授業時間外予復習における【A知識・理解力】は毎回の授業に関するノート作成(その他65点内)、【B 専門的技術】はお話教材作りと発表(10点)、お話教材の貸借(その他65点内)で評価します。加えて受講生の任意の課題として、「発展的事前・事後学修課題とその評価」(その他65点内)を設定します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： 成績評価後に返却します。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①オリエンテーションと領域「言葉」の意義付け、ねらい、内容、内容の取扱い				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
②乳児期の子どもの保育に関するねらい及び内容				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
③満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容および満3歳以上の園児の教育及び保育に関するねらい及び内容				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
④自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう保育				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
⑤人の言葉や話などをよく聞く				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
⑥伝え合う喜びを味わう				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
⑦日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しむ				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
⑧言葉に対する感覚を豊かにする				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
⑨体の動きや表情、発声等により、保育教諭等と気持ちを通わせようとする				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
⑩絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
⑪日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
⑫絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりする				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
⑬生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
⑭現代的課題と領域「言葉」				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
⑮幼児が言葉を紡ぐ環境とテスト				授業に関するノート作成及びお話教材作り、お話教材の貸借、他任意課題	180	
使用テキスト： 平成29年告示幼稚園教育要領解説(9784577814475)、平成29年告示保育所保育指針解説(9784577814482)、平成29年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(9784577814499)					その他参考文献など：	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 初回の講義で評価および準備学修(予習・復習)等についての詳細資料を配布します。						

幼児教育学科

科目名: 保育内容(表現)				担当教員 氏名: 岡野 宏宣・大川晶也		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	選択必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。						・領域「表現」・造形表現・音楽表現 ・ミュージカル・ICT
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8	
A 知識・理解力			「領域」表現の基礎知識を知り、幼児の表現や発達にあった表現活動について学ぶ			
B 専門的技術			表現の基礎技能や伝承遊びやICTなどを学び、幼児の表現活動に展開させることができる			
D 問題解決力			表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について考察することができる			
H コミュニケーション力			協力して演じたりすることを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	30 %	実技試験: %
その他: %						
特記事項:『レポート(50%)』は、授業・演習・制作のふりかえりレポートと期末レポートである。『発表(50%)』は、課題のプレゼンテーション発表やミニミュージカルの実演である。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各回ごとに振り返りレポートを課す(制作課題の場合もある)。15回目終了時に期末レポートを出題する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業・演習・制作ふりかえりレポートにコメントする。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
第1回(共同): 幼稚園教育要領における幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けの理解				事後: 授業の振り返り	60	
第2回(大川): 幼児の素朴な表現についての理解 (生活の中の音探し・色探し)①				事後: 授業振り返り	60	
第3回(大川): 幼児の素朴な表現についての理解 (生活の中の音探し・色探し)②				事後: 授業の振り返り	60	
第4回(大川): 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開する ・様々な楽器を使った音楽表現				事後: 授業の振り返り	60	
第5回(大川): 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開する ・伝統芸能や伝承遊びから多様な表現を学ぶ				事後: 授業・演習の振り返り	60	
第6回(岡野): 表現を生成する過程を学び、幼稚園教育における評価の考え方を理解する				事後: 授業・演習の振り返り	60	
第7回(岡野): 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開する ・自然環境を生かした造形表現から				事後: 授業の振り返り	60	
第8回(岡野): 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開する ・ICTを活用した表現の事例を知る				事後: 制作の続き・振り返り	120	
第9回(大川): 様々な表現を感じる・見る・聴く楽しむことを通してイメージを豊かにする ・劇遊びと舞台表現を通して				事後: 制作の続き・振り返り	120	
第10回(共同): 身の周りのものを通して身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現を行う① ・ミュージカルを通して(素材感を生かした舞台作り)				事後: 授業の振り返り	120	
第11回(共同): 身の周りのものを通して身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現を行う① ・ミュージカルを通して(素材感を生かした舞台作り)				事後: 制作の続き・振り返り	120	
第12回(共同): 身の周りのものを通して身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現を行う② ・ミュージカルを通して(様々な素材を使った音作り)				事後: 演習の振り返り	120	
第13回(共同): 協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげる ・ミュージカルの発表 (ミニミュージカル)				事前・事後: 予習・振り返り	120	
第14回(岡野): 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析する				事後: 授業の振り返り	120	
第15回(岡野): 領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けて行く内容の関連性及び小学校教科等との繋がりを理解する				レポートの作成	180	
使用テキスト: 必要に応じて資料を提供します。				その他参考文献など: 「幼児造形の基礎・乳幼児の造形表現と造形教材」樋口一成(編著)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 課題制作がある授業のため、毎回欠かさず出席して下さい。やむを得ない理由で課題の進行が遅れた場合は、自ら時間を作り、各課題のまとめの時間までに遅れを取り戻してください。						

幼児教育学科						
科目名： 保育内容(身体表現)の指導法				担当教員 氏名： 澤 聡美		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか： 保育園、子ども園、幼稚園及び運動教室における子供の運動指導の実務経験を活かして、子供の実際の様子を踏まえて教授する。						
授業科目の学修教育目標の概要：					キーワード	
子どもの感性和輝きを引き出すためには、保育者自身が、わくわくする体験を通して、感性豊かに表現できる空間・時間・仲間と経験が大切である。実践と省察を繰り返すことで、乳幼児の主体的な身体表現を展開するためには、どのように関わり、支援すればよいのかを考える。					五感(豊かな感性)、健康、表現、人との関わり	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
B 専門的技術			子どもの感性和輝きを引き出す表現方法や創作法を理解し、工夫できる。			
E 自己管理能力			自らの生活習慣、これまでの運動との関わりについて振り返り、自らの健康を管理できる力を身につける。			
F チームワーク・リーダーシップ			チームで役割を分担して活動し、チームに参画する力を身につける。			
H コミュニケーション力			運動を通して他者と関わり、他者の意見を聴く力、理解する力、コミュニケーションについて実践的に学ぶ。			
D 問題解決力			運動指導中に起こる問題について、考え、チームで解決方法を検討し、様々な解決方法を考え、実践できる。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %		レポート： 60 %		発表： 30 %		実技試験： %
						その他： 10 %
特記事項：その他はチームでの発表や活動について評価する。						
アクティブラーニング要素：						
(課題解決型学修) ディスカッション、ディベート (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：発表・実技試験等の実施時期：毎回、授業の終わりに気づき・学びシートを提出し、学びを蓄積し、11回目と15回目に振り返りのレポートを作成する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：コメントを書いて返却する。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①オリエンテーション				[予習]これまでの運動に対する自分の関わりについて振り返る [復習]身体表現の目標を決める	60分	
②幼児の表現を促す、感性を豊かにするリズム・表現				[復習]「いないいないばあ」を参考に、乳幼児が好きな音楽(音)を見つける	60分	
③イメージを豊かにするための、素材(新聞紙)の特性を生かした表現と運動				[復習]身近な素材を使った親子での遊びを調べる	60分	
④イメージを豊かにするための、素材(布)の特性を生かした表現と運動				[復習]身近な素材を使った親子での遊びを考える	60分	
⑤イメージを豊かにするための、素材(風船)の特性を生かした表現と運動				[復習]身近な素材を使った親子での遊びを考える	60分	
⑥イメージを豊かにするための、動物の特性を生かした表現と運動				[予習]ファミリーパークの動物を調べる	120分	
⑦6回目の動物の模倣から、4つの運動スキル(移動系・平衡系・操作系・非移動系)を養う表現・運動の創作				[復習]動物の絵本を見つけてくる	60分	
⑧動物の模倣から作品創作				[復習]動物の動きを調べる	60分	
⑨8回目に創作した表現を、曲に合わせ、ひと流れの作品に仕上げる。				[復習]スマホに録画した映像を見て、空間、リズム、体の状態など工夫できることはないか検討する	60分	
⑩チームで創作した表現の発表				[復習]創作過程でのグループワークについて省察する	60分	
⑪ICTを活用し、自他の体験した表現方法や表現活動の振り返り、表現の面白さや可能性の追求				[予習]子どもの体力について調べる	60分	
⑫体力を高めるための、身体表現(リズム)				[復習]自宅でも継続できる表現遊びを考える	60分	
⑬これまでの基礎的な知識・技能を生かし、体力を高めるための身体表現(リズム)の創作				[復習]自宅でも継続できる表現遊びを考える	60分	
⑭体力を高めるための身体表現(リズム)の発表準備				[予習]スマホに録画した映像を見て、空間、リズム、体の状態など工夫できることはないか検討する	60分	
⑮発表と総評				[復習]実践を通した学び、グループワークについて省察する	60分	
使用テキスト：必要に応じて配布する				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 運動にふさわしい服装で、装飾品は怪我につながるのではありませんこと。朝食を取ってから来ること。						

幼児教育学科

科目名： 乳児保育 I				担当教員 氏名： 長谷 尚子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	選択	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 保育士としての実務経験を生かして、乳児保育の実際や援助、さらには社会的状況や求められる態度等を含めた授業を講義を中心に行う。						
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
1. 乳児保育の意義・目的 と歴史的変遷及び役割等について 理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場 における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を 踏まえた 保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について 理解する 。						養護・教育・子育て支援・環境
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			乳児保育における新制度や法改正、現状と課題についての知識を身につける。			
B 専門的技術			乳児保育に必要な専門的知識について学ぶ。			
F チームワーク・リーダーシップ			他者と信頼関係を築き、目標実現のため協力し共に育ちあうことができる。			
G 倫理観			保育士として求められる価値と倫理に従って行動できる。			
H コミュニケーション力			言語や身体を用いて自己・他者の理解を深めるコミュニケーションができる。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 70 %		レポート： 20 %		発表： %		実技試験： % その他： 10 %
特記事項：「テスト：70%」は中間・期末で、「レポート：20%」は授業後のレポート、「その他：10%」は、授業時の参加姿勢・態度を評価する。レポートは個人で取り組んだものに対して評価する。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：適宜小テストを行う。最終試験は、別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：適宜小テストを行い、採点し返却する。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①オリエンテーション(今後の授業に対する心構えと見通し) 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷				【予習】教科書を読む 【復習】①の復習	【予習】30分 【復習】30分	
②乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題				【予習】教科書を読む 【復習】②の復習	【予習】30分 【復習】30分	
③保育所における乳児保育				【予習】教科書を読む 【復習】③の復習	【予習】30分 【復習】30分	
④保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育				【予習】教科書を読む 【復習】④の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑤家庭的保育・小規模保育等における乳児保育				【予習】教科書を読む 【復習】⑤の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑥3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場				【予習】教科書を読む 【復習】⑥の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑦3歳未満児の生活と環境				【予習】教科書を読む 【復習】⑦の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧3歳未満児の遊びと環境				【予習】教科書を読む 【復習】⑧の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑨3歳以上児の保育に移行する時期の保育				【予習】教科書を読む 【復習】⑨の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑩3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり				【予習】教科書を読む 【復習】⑩の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑪3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮				【予習】教科書を読む 【復習】⑪の復習	【予習】60分 【復習】60分	
⑫乳児保育における計画・記録・評価とその意義				【予習】教科書を読む 【復習】⑫の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑬職員間の連携・協働				【予習】教科書を読む 【復習】⑬の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑭保護者との連携・協働				【予習】教科書を読む 【復習】⑭の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑮ 自治体や地域の関係機関等との連携・協働・まとめ				【予習】乳児保育 I 全体の復習	【予習】60分	
使用テキスト： ①乳児保育 I・Ⅱ＜中央法規＞ 児童育成協会 978-4-8058-5795-3 ②保育所保育指針解説書					その他参考文献など：授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料も適宜配布する。	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：必要に応じて講義の後、小テストや感想をレポートすることを課題とする。幼児教育に関連した報道に関心を持ち、現状や課題について常に意識を持ってほしい。						

幼児教育学科

科目名: 臨床美術				担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次	前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 臨床美術士5級	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として保育園や幼稚園での臨床美術の実践を生かし、臨床美術の基礎的知識やコミュニケーション方法、制作プログラムの理解について授業を行っている。					
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード	
右脳の活性化と認知症予防の関係を知り、他者との関係を深めるコミュニケーション空間をつくり出し、美術療法の技術を用いて生き生きとした活動を設定する力を身に付ける。また、主体的にロールプレイングなどアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などで活動する実践力を身に付ける。						・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション ・量感画	
授業における学修の到達目標							
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 8.		
A 知識・理解力			右脳の活性化と認知症について理解することができる。				
B 専門的技術			状況や関係を把握して量感画などで表す基本的技術を習得する。				
D 問題解決力			「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。				
F チームワーク・リーダーシップ			リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。				
H コミュニケーション力			造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする							
テスト: 0 %		レポート: 30 %		発表: 30 %		実技試験: 30 % その他: 10 %	
特記事項: 事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内の発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として福祉施設などを想定して学生同士におけるロールプレイングを行います。 準備物: 毎回の授業に持参してください。・ハサミ、スティック糊、割り箸ペン、新聞紙(朝刊1日分)、ウェットティッシュ、クロッキー帳 鉛筆2Bか4B							
アクティブラーニング要素:							
課題解決型学習		ディスカッション、ディベート		グループワーク	プレゼンテーション	実習、フィールドワーク	
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表・実技は毎時間毎に実施する。							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題提出時に振り返りのコメントを伝える。							
使用テキスト:『臨床美術士養成講座5級』, 芸術造形研究所 『臨床美術-痴呆治療としてのアートセラピー』, 芸術造形研究所 (使用テキストは教員が購入します)					その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・本科目は一日に2コマや3コマ続けて行う科目になります。また開講日時も不規則なため、授業日をよく確認してください。 ・オイルパステルの特性を知り、自分自身が楽しめるようになるために、継続的に描き続けてみる必要があります。							
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)		
					学習内容	学習に必要な時間(分)	
回数							
1	【岡野】授業ガイダンス				4月14日	【予習】: 自己紹介文(ガイダンスで配布)	60分
2	【北澤】臨床美術基幹 I - ①				4月21日		
3	【北澤】臨床美術入門 I 「五感のアナログ画」				4月21日		
4	【岡野】存在論的人間観				4月28日		
5	【岡野】臨床美術入門 I 「りんごの量感画」				4月28日		

※前ページよりつづき

幼児教育学科

科目名: 臨床美術		担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣	
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)	
		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	【北澤】臨床美術入門Ⅰ「ジェスチャー画」	5月12日	
7	【北澤】臨床美術入門Ⅰ「立体かぼちゃ」	5月12日	準備物: 作品を持ち帰るための袋
8	【岡野】臨床美術コミュニケーションⅠ「ギャラリートーク」	5月19日	
9	【岡野】臨床美術コミュニケーションⅠ 「私の感性地図」「鑑賞会」	5月19日	【予習】・私の感性地図 ・りんごの量感画 120分
10	【北澤】臨床美術実践の基礎「アナログクロッキー演習」	5月26日	準備物: 鉛筆(2Bか4B)
11	【岡野】臨床美術実践の基礎「りんごの模刻」	6月2日	
12	【岡野】臨床美術実践の基礎「りんごの量感画」	6月2日	
13	【北澤】臨床美術コミュニケーションⅠ 「二人で描くアナログ画」	6月9日	【予習】: アナログ日記① 120分
14	【北澤】臨床美術コミュニケーションⅠ 「現場セッションについて」	6月9日	【予習】: 書籍『臨床美術』の感想文 240分
15	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けて試作」	6月16日	準備物: さつま芋(紫芋以外で) 和紙セット(試作で使用) 【予習】: 修正輪郭画・ゴッホの素描 ・りんごを描く4種 240分
16	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けてリハーサル」	6月16日	準備物: さつま芋(紫芋以外で)
17	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング①」	6月23日	準備物: さつま芋1個+α
18	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング②」	6月23日	
19	【北澤・岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング」「総括」	6月30日	【予習】: アナログ日記② 準備物: 臨床美術協会資格認定申請書 (課題をすべて提出している方) 120分
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

幼児教育学科

科目名: 保育表現技術(言語表現)				担当教員 氏名: 岩田 郁代		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(選択)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 担当年齢の幼児の発達を踏まえ教材を作成し、学外の幼児施設に赴き、実際に保育し、振り返りを行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
保育の内容を理解し、幼児の遊びを豊かに展開するために必要な知識や保育技術を習得する。特に言語表現に焦点を当てる。また、表現活動に用いる教材等の作成及び活用と、保育の環境構成及び具体的展開のための保育技術を、グループでの模擬授業や実際の幼児達に演じることでより学びを深めていく。						・児童文化財 ・幼児の発達 ・言語環境 ・保育技術
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		4. 5. 6. 7. 8. 9.	
B 専門的技術			絵本、紙芝居、パネルシアター、素話等に関する知識と保育技術を習得する。			
A 知識・理解力			幼児自らが児童文化財等に親しむための言語環境構成を考える。			
D 問題解決力			言語表現活動の展開について総合的に学ぶ。			
F チームワーク・リーダーシップ			役割を分担しながら実践保育をすることを通して、他者と協働し共に育ち合う。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	教材製作: 40 %	発表: 50 %	実技試験:	%	その他: 10 %
特記事項: 授業態度や講義のレポート、製作課題への取り組みや発表、グループ活動貢献度等から総合的に評価する。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ⑬⑭コマ目に学外の園で実践を行う						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の演習を互いに見合い具体的に評価し、改善を加え、学外で自信をもって演じられるようにする						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① 言語表現活動のねらいと内容及び児童文化財について知る				年齢に応じた絵本の選定	30分	
② 幼児の発達における題材の選び方(0歳児から2歳児)を学ぶ				他者からの評価を受け再選定	30分	
③ いろいろなパネルシアターを知る				教材の決定	60分	
④ 教材製作をする				教材の製作	120分	
⑤ 教材製作をする				教材の製作	120分	
⑥ グループ毎の模擬発表・協議(第一回目)・改善する				教材の改善	60分	
⑦ グループ毎の模擬発表・協議(第二回目)・改善する				教材の発表練習	60分	
⑧ 他のグループ毎の模擬発表・協議(第三回目)・改善する				教材の発表練習	60分	
⑨ 全体での模擬発表・協議(第四回目)・改善する				教材の発表練習	60分	
⑩ パネルシアターの実技に参加する				演じ方の改善	60分	
⑪ グループ毎の模擬発表をする				演じ方の改善	60分	
⑫ 学外実習の予行練習をする				導入の練習	60分	
⑬ 学外実習(学外の幼児施設) * ⑬と⑭の2コマを充てる				実践の評価	60分	
⑭ 学外実習(学外の幼児施設) * ⑬と⑭の2コマを充てる				実践の評価	30分	
⑮ 実習の確認・まとめ				ファイルの作成	30分	
使用テキスト: 特に使用しない				その他参考文献など: 教育・保育要領解説(フレーベル館) 倉橋惣三選集(学術出版会)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): アクティブラーニングの一環として、個人でパネルシアターを作成し、模擬発表と評価・改善を重ね、最終には学外に出て実習する場を設けています。毎回の出席が原則です。やむを得ず欠席した場合は、各自で時間を作り遅れを取り戻してください。授業内容をきちんと整理し実践に役立つようファイリングしておきましょう。						

幼児教育学科						
科目名： 保育実習指導 I-①				担当教員 氏名： 藤井、小川、石津、岡野、宮越、大川		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。1年次の保育実習指導 I-①では事前学習として、保育実習の意義、保育士や保育所及び児童福祉施設の役割、実習計画の立て方を学ぶ。					・保育実習の意義 ・実習計画	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1, 4, 6, 9	
A 知識・理解力			保育実習の意義や方法を理解する。			
E 自己管理能力			保育実習に必要な手続きを行う。			
D 問題解決力			保育実習の計画を立てる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
その他: 100 %						
特記事項: 毎回の出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題や指導案等にコメントを記載して返却						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション(授業の進め方、方法に関して)				【事後】①の復習	60	
②保育実習の意義				【事前】②の予習 【事後】②の復習	120	
③保育所の理解・児童福祉施設の理解				【事前】③の予習 【事後】③の復習	120	
④外部講師による講義(保育所の生活)				【事前】④の予習 【事後】④の復習	120	
⑤保育実習 I-①について(実習内容と実習に際しての留意事項)				【事前】⑤の予習 【事後】⑤の復習	120	
⑥保育所見学について				【事前】⑥の予習 【事後】⑥の復習	120	
⑦保育所見学のための準備				【事前】⑦の予習 【事後】⑦の復習	120	
⑧保育所見学①				【事前】⑧の予習 【事後】⑧の復習	120	
⑨保育所見学②				【事前】⑨の予習 【事後】⑨の復習	120	
⑩保育所見学の振り返り				【事前】⑩の予習 【事後】⑩の復習	120	
⑪実習計画に関して・実習に必要な書類に関して				【事前】⑪の予習 【事後】⑪の復習	120	
⑫実習日誌について				【事前】⑫の予習 【事後】⑫の復習	120	
⑬実習指導案について				【事前】⑬の予習 【事後】⑬の復習	120	
⑭実習に必要な教材について				【事前】⑭の予習 【事後】⑭の復習	120	
⑮夏休みの見学実習について				【事前】⑮の予習 【事後】⑮の復習	120	
使用テキスト: ①開仁志(編著)『これで安心保育指導案の書き方』<北大路書房>ISBN: 978-4762826214 ②開仁志(編著)『実習日誌の書き方』<一藝社>ISBN: 978-4863590427 ③阿部恵・鈴木みゆき(編著)『教育・保育実習安心ガイド』<ひかりのくに>ISBN: 978-4564606717 ④鈴木みゆき(編著)『実習のヒントとアイディア』ISBN: 978-4-89347-022-5				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、保育実習 I-①を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。 本科目の履修状況によっては、保育実習 I-①の履修を認めないことがあります。						